

2012年10月10日

株式会社 富士経済  
 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町  
 2-5 F-Kビル  
 TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165  
 URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>  
<https://www.fuji-keizai.co.jp/>  
 広報部 03-3664-5697



エネルギーデバイス&amp;BOS (Balance Of System) 機器、エンジニアリング・施工まで

## 国内エネルギーBOS - S I市場を調査

■ 2012年度の産業用太陽光発電システムS I市場は前年比4.6倍の4,800億円

・・・固定価格買取制度（FIT）の実施と震災後の電力供給不安の対策で需要が拡大

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済（東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811）は、2012年7月より施行された固定価格買取制度（FIT）により需要拡大が期待される太陽光発電システムや風力発電システム、地熱発電システム、小型水力発電システムをはじめ、それら不安定な自然エネルギーの普及により必要性が高まっている蓄電システム、新エネルギー関連として注目される燃料電池システムやヒートポンプ式給湯システムの国内市場を調査した。その結果を報告書「2012 優遇政策導入で加速するエネルギーBOS市場の現状と将来展望」にまとめた。

この報告書では、エネルギーデバイスとその周辺機器（BOS機器）市場のほか、エネルギーデバイス（例えば太陽電池）と周辺機器、施工を含めたシステム設置を、エネルギーBOS-S I市場として捉えている。また、システムインテグレータや流通・施工業者34社の取り組みを事例分析したほか、エネルギーデバイス・周辺機器等の採用に関するサプライチェーンを分析した。

## &lt;調査結果の概要&gt;

## ★国内エネルギーBOS - S I市場★

分野	2012年度見込	11年度比	2020年度予測	11年度比
産業／業務用	5,446億円	301.7%	9,582億円	530.9%
発電システム	5,093億円	376.4%	8,837億円	653.1%
住宅用	9,727億円	101.3%	2兆 152億円	209.9%
発電システム	6,902億円	104.7%	1兆5,402億円	233.7%
合計	1兆5,173億円	133.0%	2兆9,734億円	260.7%
発電システム	1兆1,995億円	151.0%	2兆4,239億円	305.1%

※発電システムは各分野の内数

2011年度の国内エネルギーBOS - S I市場はFIT待ちの産業／業務用が伸び悩んだことから微増に留まったが、2012年度は産業／業務用が前年度の反動で大幅に伸び、2011年度比33.0%増の1兆5,173億円が見込まれる。2012年度は産業／業務用が市場拡大を牽引したが、中長期的には住宅用太陽光発電システムを中心とする住宅用が市場拡大を牽引すると予想される。

市場は太陽光や風力などの発電システムの構成比が高い。2011年度の発電システム市場は産業／業務用と住宅用を合わせ8,000億円程度であったが、2012年度は1兆円を超える見込みである。給湯システムはヒートポンプ式給湯システムを対象としているが、震災後オール電化に対する風当たりが厳しく、給湯システム市場は縮小している。中期的には横ばい、その後拡大推移が予想される。蓄電システム市場はまだ規模が小さいが、発電と同時に蓄電することによって電力不足を一時的に回避できるというメリットが得られる。システムの価格次第であるが、電力供給不安への保険としてどこまで投資をできるかが蓄電システム市場拡大を左右する。

## ■産業／業務用

2011年度の産業／業務用市場は2012年開始のFIT待ちによる導入見送りが響き縮小したが、2012年度はFITが施行されたことや、震災後の電力供給不安への対策措置で、前年度比3倍の5,446億円が見込まれる。特に太陽光発電システムが大幅に拡大する。

今後産業／業務用市場は太陽光発電システムに加え、洋上を中心とした風力発電システム、燃料電池システムなどの伸びにより、2020年度には2011年度比5.3倍の9,582億円が予測される。

## ■住宅用

住宅用市場は太陽光発電システムとヒートポンプ式給湯システムの構成比が高い。2011年度は、太陽光発電システムは順調に伸びたが、ヒートポンプ式給湯システムは縮小した。一方、蓄電システムの市場が本格的に立ち上がった。

2012年度の住宅用市場は、引き続きヒートポンプ式給湯システムがマイナスとなり、太陽光発電システムも伸びが鈍化したことから、2011年度比1.3%増に留まると見込まれる。しかし、2013年以降はヒートポンプ式給湯システムがプラスに転じ、太陽光発電システムの伸びも上向くことから、住宅用市場は2020年度には2011年度比2.1倍の2兆152億円が予測される。

## <注目市場>

### 1. 産業用太陽光発電システムSI市場

2012年度見込	11年度比	2020年度予測	11年度比
4,800億円	457.1%	7,300億円	695.2%

市場は2009年度から2010年度にかけて大幅に拡大したが、2011年度は補助金が終了したことでFIT待ちの状況から縮小した。2012年度は固定価格買取制度（FIT）が始まったことから大幅な市場拡大が見込まれる。制度開始時期が当初の4月から7月になったことや、買取価格の決定が6月中旬までずれ込んだことなどの影響も考えられるが、2012年度の市場は2011年度比4.6倍の4,800億円が見込まれる。

### 2. 産業用風力発電システムSI市場

2012年度見込	11年度比	2020年度予測	11年度比
240億円	96.0%	1,120億円	448.0%

陸上での設置適地が減少し、2010年には補助金も打ち切れ、新たな設置は困難な状況にある。そのため2012年度は2011年度比4.0%減の240億円となった。

今後は洋上設置にシフトしていくと見られる。洋上設置には漁業権や技術面、コスト面、インフラ整備など、多数の課題があるが、開発を進める日系メーカーは多く、実証実験を経て2015年頃には製品投入が期待される。2020年度には2011年度比4.5倍の1,120億円が予測される。

<調査対象>

エネルギーBOS - S I	
産業／業務用	太陽光発電システム、風力発電システム、太陽熱発電システム、地熱発電システム、小型水力発電システム、燃料電池システム、ヒートポンプ式給湯システム、蓄電システム
住宅用	太陽光発電システム、風力発電システム、燃料電池システム、ヒートポンプ式給湯システム、蓄電システム
エネルギーBOS	
産業用太陽光発電用パワーコンディショナ、住宅用太陽光発電用パワーコンディショナ、大型風力発電用パワーコンディショナ、小型風力発電用パワーコンディショナ、燃料電池用パワーコンディショナ、電力モニタ、風力発電用発電機、太陽熱発電用タービン、小型水力発電用発電機、住宅用蓄電デバイス、業務／産業用蓄電デバイス、ヒートポンプ用コンプレッサ、太陽電池モジュール、燃料電池	
エネルギーBOS用部品	
電力用アルミ電解コンデンサ、電力用リアクトル、電力用パワーデバイス（IGBT、MOS-FET）、駆動装置用軸受	

<調査方法>

富士経済専門調査員による参入企業、関連団体等への面接又は電話によるヒアリング、社内データベースの活用

<調査期間>

2012年5月～8月

以上

資料タイトル	: 「2012 優遇政策導入で加速するエネルギーBOS市場の現状と将来展望」
体 裁	: A4判 330頁
価 格	: 97,000円（税込み101,850円） 書籍版・PDF版セット 117,000円（税込み122,850円）
調査・編集	: 富士経済 大阪マーケティング本部 第三事業部 TEL:06-6228-2020 FAX:06-6228-2030
発 行 所	: 株式会社 富士経済 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル TEL03-3664-5811（代）FAX 03-3661-0165 e-mail:info@fuji-keizai.co.jp この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL : <a href="http://www.group.fuji-keizai.co.jp/">http://www.group.fuji-keizai.co.jp/</a> <a href="https://www.fuji-keizai.co.jp/">https://www.fuji-keizai.co.jp/</a>